

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2023年 2月 9日

事業所名 HERO

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		午前と午後の2部少人数制にすることで、利用児が心地よく過ごせる空間にしている。	
	2	職員の配置数は適切である	○		基準より1名多く配置することで加配加算を取得し、少人数制にすることで、丁寧な支援ができるよう工夫している。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		利用児が見通しを持って生活できるよう、絵カードやタイムタイマーを使用したり、選択カードを用いて意思表示ができるよう工夫している。また子ども用トイレ、手洗い場を設けている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		日々そうじと消毒を行うことで清潔を保ち、子どもたちが元気いっぱい活動できるよう広い空間を確保している。	広々としている分、子ども同士の衝突等の事故を防げるよう安全管理を徹底していきたい。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		会議や終礼にて振り返りを行い、業務改善に繋げている。月1回の全体会議にはパート職員にも参画を促している。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		今後、行政による評価が定期的に入るため、随時結果を受け止めて改善していきたい。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		発達障がい者支援センター主催の研修等に積極的に参加し、研修受講後にはHERO施設内で伝達研修を実施している。	
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		6か月に1回のモニタリングを実施し、その結果を基に個別支援計画策定会議を実施した上で計画を作成している。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		新規プログラムを導入したり、季節毎のプログラム、利用児それぞれの発達状況に応じたプログラム等を考案し、幅広く実施している。	引き続き、療育に必要な備品の購入や、新たな教材の導入等すすめていく。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		児童発達支援計画の更新毎に、児童一人ひとりの支援や目標について振り返り、今後の方向性として個別活動、集団活動においてどのような支援が必要か話し合った上で作成している。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		当日の朝礼にて利用状況、送迎、その他連絡事項の確認を行っている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		終礼に参加できない職員については、後日、口頭や業務日誌等で共有している。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○				
関係機関や保護者	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			現状では児童発達支援管理責任者が参画しているが、今後支援に携わる他の職員も参画するようにしていきたい。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		区の心理相談員、保健師からの利用相談があれば随時対応している。また児童部会を通じての連携がある。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	/	/		該当しない。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	/	/		該当しない。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		送迎時に情報共有を行っている。	相互理解を図れるよう、情報共有や関係作りを行っていきたい。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
との連携関係機関や保護者との連携	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保護者から依頼があった場合に、支援内容を書面にして保護者へお渡しし、保護者から小学校へ情報共有をしていただいている。	相互理解を図れるよう、情報共有や関係作りを行っていききたい。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		発達障がい者支援センター主催の研修に積極的に参加している。	利用児が並行通所している児童発達支援事業所と情報共有する等、更なる連携をすすめられると良い。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		保育所等との交流は今のところないが、機会を見つけて交流していきたい。また、公園にて近隣の子どもたちと遊びを通して交流することができているので、引き続き、地域の中で子ども相互の関わりを促していきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども子育て会議等へ積極的に参加している	○		城東区自立支援協議会の児童部会に参加している。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○		ペアレントトレーニングは行っていないが、それぞれの家族のニーズに応じた必要な支援を行っていききたい。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		保護者からの相談があれば、都度対応している。定期的という意味では、6か月に1回のモニタリングの際に子育ての悩み等、話を伺っている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		年に2回の保護者交流会を開催している。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○			
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		児童発達支援事業所として地域へどのように貢献していけるのか模索していく。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	/	/		現在、該当児がいない。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○			

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。

公表: 2023年 2月 15日

事業所名

HERO

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		午前と午後の2部少人数制にすることで、利用児が心地よく過ごせる空間にしている。	
	2	職員の配置数は適切である	○		基準より1名多く配置することで加配加算を取得し、少人数制にすることで、丁寧な支援ができるよう工夫している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		利用児が見通しを持って生活できるよう、絵カードやタイムタイマーを使用したり、選択カードを用いて意思表示ができるよう工夫している。また子ども用トイレ、手洗い場を設けている。	トイレ配管の都合で玄関に段差があるが、バリアとなってしまう場合には合理的な配慮を行う。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		会議や終礼にて振り返りを行い、業務改善に繋げている。月1回の全体会議にはパート職員にも参画を促している。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		今後、行政による評価が定期的に入るため、随時結果を受け止めて改善していきたい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		発達障がい者支援センター主催の研修等に積極的に参加し、研修受講後にはHERO施設内で伝達研修を実施している。	

適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		6か月に1回のモニタリングを実施し、その結果を基に個別支援計画策定会議を実施した上で計画を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		新規プログラムを導入したり、季節毎のプログラム、利用児それぞれの発達状況に応じたプログラム等を考案し、幅広く実施している。	引き続き、療育に必要な備品の購入や、新たな教材の導入等すすめていく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		休日や長期休暇中には、平日にはできない外出支援や買物学習などを取り入れ、柔軟にプログラムを設定している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		児童発達支援計画の更新毎に、児童一人ひとりの支援や目標について振り返り、今後の方向性として個別活動、集団活動においてどのような支援が必要か話し合った上で作成している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		当日の朝礼にて利用状況、送迎、その他連絡事項の確認を行っている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		終礼に参加できない職員については、後日、口頭や業務日誌等で共有している。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○				
20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			現状では児童発達支援管理責任者が参画しているが、今後支援に携わる他の職員も参画するようにしていきたい。	

関係機関や保護者との連携

21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○			
22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	/	/		該当しない。
23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○		相互理解を図れるよう、必要に応じて情報共有や関係作りを行っていききたい。
24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	/	/		対象年齢を小学6年生までとしているため、該当しない。
25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		発達障がい者支援センター主催の研修に積極的に参加している。	
26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		児童館等との交流は今のところないが、公園にて近隣の子どもたちと遊びを通して交流することができている。引き続き、地域の中で子ども相互の関わりを促していききたい。
27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		城東区自立支援協議会の児童部会に参加している。	
28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		ペアレントトレーニングは行っていないが、それぞれの家族のニーズに応じた必要な支援を行っていききたい。
30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		保護者からの相談があれば、都度対応している。定期的という意味では、6か月に1回のモニタリングの際に子育ての悩み等、話を伺っている。	
32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		年に2回の保護者交流会を開催している。	
33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			

保護者への説明責任等

	35	個人情報に十分注意している	○			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		放課後等デイサービスとして地域へどのように貢献しているのか模索していく。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	/	/		現在、該当児がいない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			